



元気っ子通信

No.68

平成 29 年 5 月 16 日発行

新年度スタートももう 1 ヶ月が過ぎてしまいました。13 名の新 1 年生もすっかり学童生活になじんで楽しそうに上級生と関わりをもって遊んでいます。

これから学校でも学童でもたくさんの経験を積みながら自分で学んでいくことが多くなります。仲間と楽しく過ごすには、わがままは通りません。たくさんの衝突を経験しながら、友だちの気持ちを理解できるように、そして自分の気持ちを抑えることの大切さもわかってほしいと思います。

一日一日の生活の中のひとつひとつにたくさんの教えがあります。あいさつの仕方、言葉の使い方、荷物の片付け方、トイレの使い方、食事の仕方、靴のそろえ方等々、あげていくときりがないほどです。それらを私たちは気付かないままやりすごしていることが多いけれど、少し意識を持ち言葉をかけることで子どもの気持ちや態度は変わるものです。人として生きる上で基本となるたいせつなものです。

平成 30 年度から「道徳」が教科に入るとのことですが、机上で教え、教えられるものではなく日々の生活の中で経験し、感じ、考えていくものではないのかなと思います。例えば、ケンカの仲裁で、弱い者をいじめない、ひきょうなことをしない等、これらを目にして感じて考えて理解していくことで、ものごとの良し悪しや常識などを身につけていくのだと思います。

子供同士のトラブルは毎日のおきます。「これはちょっと」と思うときは指導員も口出ししますが、なるべく自分の気持ちを出せる、あるいは抑えることで、うまく仲間とかわかることを身に付けてほしいと思います。

信号までの指導員のお迎えも連休明けで終了しました。下校の時も、上級生に教えてもらいながらみんなに迷惑をかけずにルールを守って帰ってくることを約束しています。

少しずつ自分で考えて行動するようになってほしいと願っています。



中瀬